

- 日射レベルにより透過率を自動調整するサンゴバンの超高機能ガラスで省エネビルを建設-
みかんぐみが京都のフランス極東学院でホルシム賞奨励賞を受賞

フランス極東学院(EFEO)のブノワ・ジャケ京都支部長と、建築設計事務所「みかんぐみ」のマニュエル・タルディッツ氏は、今年2月に竣工したEFEO 京都支部の持続可能性が評価され、11月13日にインドネシアのジャカルタでホルシム賞奨励賞を受賞しました。EFEO 京都支部のビル正面には、アジアで初めてサンゴバンの日射調整ガラス”SAGE”(セージ)が全面に使用され、受賞の決め手となりました。

【省エネ設計のフランス国立極東学院】



受賞の対象となったのは、今年2月に京都(左京区北白川別当町)で竣工したフランス教育省の文明研究センター「フランス国立極東学院(EFEO)」の省エネビル。西側道路面以外は住宅に隣接し、建物の中には豊富な書籍を保管する施設です。環境と快適性を両立させる最先端の建築材料(サンゴバンのエレクトロクロミックガラス「SAGE(セージ)」、高性能グラスウール断熱材、クールチューブ、太陽光発電パネル等)と、日本の伝統的な建築技術によって持続可能な建築を実現したことが、ホルシム財団に評価されました。受賞にあたり、設計を手がけたみかんぐみのマニュエル・タルディッツ氏は、京都という(伝統的な)町で伝統技術と地域の木材を使用しつつ、最先端のエレクトロクロミックガラスを建物の西側全面に使用したことが、持続可能な建築につながったと強調しました。

(ホルシム賞に関する詳細はホルシム財団の[ホームページ](#)をご覧ください)

【日射調整ガラス”SAGE”の特徴】



SAGE を全面に使用したファサード



強い西日の遮蔽を自動的に行う



透過率 1%と 60%の比較写真

SAGE はフランスの建材メーカー サンゴバングループ(サンゴバンジャパン本社:千代田区麴町)の製造する建築用ガラスで、特殊コーティングが施されたペアガラスと室内外に設置されたセンサーによって、ガラスの可視光透過率を 1%~60%に自動で調整できる超高機能ガラスです。

エレクトロクロミックという技術に室内外のセンサーを用いることにより、自動的に日射しの強い環境下では透過率を下げて日射しを遮り、そうでないときは自然光を存分に取り入れようと 60%の透過率が、ガラスファサードやトップライトで可能となります。夏は暑い日射しを遮り、冬は西日の眩しさを遮れる超高機能ガラスです。建物の省エネ基準が高まる昨今、市場ニーズにマッチした製品ともいえます。

【使用者インタビュー】



SAGE の導入により、窓近くに書棚を設置しても本が焼ける心配はない

京都支部ビルへの SAGE 導入を決定したのは、フランス国立極東学院の院長であるフランシスクス・ヴェレレン(Franciscus Varellen)氏。「京都支部は住宅密集地に立地し、日射が道路側の西側からしか取れないという制約があったため、快適性や省エネ性を確保するためには、遮光・遮熱性の高いガラスが不可欠でした。また、研究機関の象徴とも言える書籍が、ビルの外からも見えるデザインを希望していたので、「書籍が日に焼けないガラス」ということが採用の決め手になりました。」と語りました。

設計を手がけた、株式会社みかんぐみのマニュアル・タルディツツ(Manuel Tardits)氏も、「この場所の強い西日を遮るためには、LOW-E ガラスとルーバー、ブラインドなどの組み合わせで実現することも可能ですが、設備が多いと使用者に操作負担が掛かる上、





サン・ジュストの吹きガラスは、デザインのアクセントとして各フロアに使用された

デザイン面でも美観が損なわれてしまいます。

その点 SAGE はガラスのみの使用で、必要に応じて極めて強力に日射遮蔽できるため最適な解決策になりました。」と、高性能ガラスの使用によるユーザビリティおよびデザイン性の向上を評価しました。

なお、ビルにはデザインのアクセントとして、サン・ジュスト(サンゴバンの伝統工芸ガラスブランド)の吹きガラスも使用されています。上品なモチーフが繊細に浮かび上がる白と透明を基調としたステンドグラスは、日本の障子を連想させる仕上がりとなりました。

【海外導入事例】



ボールステート大学トップライトでの SAGE 導入事例

SAGE は既に欧米を中心に、省エネ性能や日射遮蔽を追求する建築プロジェクトで導入が進んでいます。例えば、カリフォルニア州のシャポー大学(ファサードで使用。LEED においてプラチナム取得物件)やイリノイ州のボールステート大学(トップライトで使用。竣工時は別のガラスが入っていましたが、あまりにも日射が強いため SAGE に変更。それにより、以前よりも快適に過ごせるようになり日中の環境下でもプロジェクトを使用できるようになりました)が、その代表例です。SAGE は 2003 年に商品化され、その後も技術を進化させながらも、アメリカを中心にヨーロッパやオーストラリアでの導入が進んでいます。アジアでは今回のフランス国立極東学院 京都支部ビルでの使用が初の導入事例となりました。

本件に関するお問合せ先

プレス問合せ： サンゴバン(株)広報担当 山口 電話 03-3288-7515 maiko.yamaguchi@saint-gobain.com
読者問合せ： サンゴバン・ハンガラス・ジャパン(株)営業担当 須藤 電話 03-5275-0865
yasuhiko.sudo@saint-gobain.com

